

「いいです」はいいんですか？

彭 拓登（大阪教育大学附属池田中学校一年生）

「ジュースはもう一杯いかがですか。」（再来一杯橘子水怎么样？）

と中国で店の人に聞かれた際に、

「いいです。」（可以）

と答えると、コップにジュースがなみなみつがれてしまいました。

（しまった。またやってしまった。）と僕は思いました。「いいです。」と断ったつもりで言った中国語の“可以”が相手には伝わらなかったようです。

僕は、父が中国人で、母が日本人であるハーフです。この話も、夏休みに帰省した中国でのことです。

僕は、日本で暮らしているので、中国語であっても、日本の習慣で「いらぬい。」となかなかはつきりとは言えません。日本人は相手に失礼のないように考えて知らず知らずのうちに言葉を選んでいきます。これは日本人と中国人の言語習慣の大きな違いです。日本人は否定などを和らげて表現し、中国人は否定か肯定かをはつきりさせて表現します。

もう一つの日本語と中国語の違いの例として『オノマトペ』をあげましょう。日本語と中国語の『オノマトペ』の一番の違いはなんとと言ってもその量の多さです。日本語の『オノマトペ』は世界の言語のなかでも非常に豊富な言語だと言われています。例えば、日本語では犬の鳴き声として、

「ワンワン」

「キャンキャン」

「ガウガウ」

など、多くありますが、中国語には「汪汪」（ヴァンヴァン）しかありません。この例から、オノマトペの数は日本語の方が断然多いと分かります。日本語のオノマトペの数は、中国語の三倍、英語の五倍もあると言われているので、当然、その使い方も多様で外国人には分かりにくい、ややこしいことが分かりました。

このような違いはオノマトペだけではありません。日常会話で日本人は自分を指すとき、「僕」「私」「俺」「おい」「ら」などと色々ありますが、中国語では通常「我」（ウォー）しか使いません。そのため、「僕」「私」「俺」「おい」の使い分けは外国人にはやややこしいと思われれます。

外国人にはややこしいと思われる表現から、日本語の特徴が分かります。「日本語の表現が豊富」だから、外国人の習得には難しく、「ややこしい」と思われます。

最初に書いたエピソードもそうですが、日本語は目に見えない人間の心遣いの表現が多い。いつでも相手に不愉快な思いをさせないように神経を遣って注意しているため、人間関係を維持する気遣い表現が豊富となっています。

一方、このような表現は外国人には理解しにくい、ややこしいと思われ、また外国人の誤解を生んでしまう原因ともなります。

今後外国人にややこしいと思われる日本語を調べ、そこから日本語の魅力を発見しようと思います。